

KASELE 2021 Nagasaki

第49回九州英語教育学会 長崎研究大会 プログラム



会 長 柳井 智彦 (大分大学名誉教授)
大会実行委員長 中村 典生 (長崎大学)

日 時 : 2021年12月4日(土) 9:40-17:00

会 場 : オンライン

大会本部 : 長崎大学 (長崎県長崎市文教町 1-14)

ホームページ <https://www.nagasaki-u.ac.jp/>

後 援 :

参加費 : 会員 : 無料, 非会員 : 500円 (資料代として)

日 程 (Schedule) :

9:00- 受付 (Reception)

9:40- 9:55 開会行事 (Opening Ceremony)

会長挨拶 柳井 智彦 (大分大学名誉教授)

会場校挨拶 中村 典生 (長崎大学副学長)

実行委員長挨拶 中村 典生 (長崎大学教授)

10:00-12:10 研究発表 (Presentations)

12:10-13:15 昼食 (Lunch Break)

13:15-14:15 研究発表 (Presentations)

14:30-14:50 総会 (Members' Meeting)

15:00-16:50 シンポジウム (Symposium)

16:50-17:00 閉会行事 (Closing Ceremony)

★ 研究発表 Presentations ★ (発表 20 分、質疑応答 5 分)

10:00-10:25 Presentation 1

13:15-13:40 Presentation 5

10:35-11:00 Presentation 2

13:50-14:15 Presentation 6

11:10-11:35 Presentation 3

11:45-12:10 Presentation 4

※使用言語 (Language used in the presentations , L: Language, E: English, J: Japanese)

第一会場 (Presentation Room 1)

発表者	発表タイトル	L
1 松本 祐子 (宮崎公立大学)	英語科教育法クラスにおける話し合い学習 (LTD) の実践と学習者評価: アクティブラーニング (外化) 尺度、学習アプローチ尺度、及び自己・ピア評価に基づく分析	J
2 深澤 真 (琉球大学)	日本の高校における英語の授業は学習指導要領に基づき変化したか	J
3 奥洞 淳一 (長崎市立西泊中学校)	Regional disparities in English education	E
4 内田 富男 (明星大学)	「グローバル教育」のための郷土教材の試作: 喜界高等学校との連携協力による取り組み	J
5 長友 隆志 (宮崎県立都城西高等学校)	合意形成の議論を目的とした主体的・対話的で深い学びの形成とスピーキング不安の関係—Conflict Resolution の活動を用いた実践例—	J
6 武末 俊光 (熊本県立大学大学院生)	日本の中学校における新旧英語教科書のコロケーション比較	J

第二会場 (Presentation Room 2)

発表者	発表タイトル	L
1 立川 研一 (大分大学教職大学院)	物語教材の読解における道徳科的アプローチによる深い学びの実現	J
2 飯村 英樹 (群馬県立女子大学)	提示モードの違いが英文理解に与える影響: 復唱課題の場合	J
3 子川 春子 (熊本大学大学院生)	中学生の持つ「何のために英語を勉強するか」への意識と使用する英語語彙学習方略の関係	J
4 折田 充 (熊本大学) 小林 景 (慶應義塾大学) 相澤 一美 (東京電機大学) 村里 泰昭 (熊本大学) 神本 忠光 (熊本学園大学) 吉井 誠 (熊本県立大学) Richard Lavin (熊本県立大学)	熟達度の異なる大学生の英語心内辞書構造—名詞群・形容詞群・動詞群の比較—	J
5 高波 幸代 (中央大学人文科学研究所)	単語の印象と特徴はスペリングテストの難しさを予測するか: MIMIC モデルによる予備的分析	J
6 長 加奈子 (福岡大学)	日本語を母語とする中高生の時制使用から見える母語の影響: 認知言語学の観点から	J

第三会場 (Presentation Room 3)

発表者	発表タイトル	L
1 Tomek Ziemia (大分工業高等専門学校)	SDGs and presentation skills in EFL with political implementations	E
2 岡田 美鈴 (宇部工業高等専門学校)	CLIL 型指導による SDGs 英語プレゼンテーション能力と汎用的技能の向上②—英語力とジェネリックスキルをどう評価するか—	J
3 石原 知英 (鹿児島大学)	ピアスピーチのリテリング活動を通じた仲介能力の育成: 仲介態度の変化に焦点を当てて	J

4	川野 泰崇 (大分工業高等専門学校)	中学生の英会話活動における発話パフォーマンスの経時的変化	J
5	大下 晴美 (大分大学)	英語絵本読み聞かせ聴取時における発達段階の異なる学習者の脳活性状態の違い	J
6	Branden Carl Kirchmeyer (崇城大学)	Building Communicative Confidence: A Systematic Approach Using Formative Assessment	E-

第四会場 (Presentation Room 4)

	発表者	発表タイトル	L
1	麻生 雄治 (大分大学)	コントロールの有無の違いによるセンテンス・コンバイニングの特徴	J
2	尾崎 ちひろ (佐世保工業高等専門学校)	産出モードの影響と高専生の英作文と発話におけるパフォーマンスの違い	J
3	勝久 愛 (鹿児島大学大学院生)	中学生の英作文における伝わりやすさとつながりに関する研究—結束性デバイス使用とその指導はエッセイの伝わりやすさに寄与するか—	J
4	Adam Murray (琉球大学)	Student Perceptions of Peer Feedback in Writing Courses	E
5	渡辺 正隆 (専修大学附属玉名高等学校)	英語授業におけるティーム・ティーチングが生徒の学習動機づけに与える影響—KH Coder によるテキストマイニング分析から—	J-
6	(空き)		

★総会★ (14:30-14:50)

★シンポジウム★ (15:00-16:50)

テーマ:「スピーキングの評価について」

パネリスト : 柿木 洋介 (長崎県立中五島高等学校)
 一ノ瀬 憲二 (長崎県立長崎東高等学校)
 大下 晴美 (大分大学)
 コーディネーター: 森下 浩二 (佐世保工業高等専門学校)

概要:

英語授業におけるコミュニケーション能力育成に焦点を当てた活動が求められる中、スピーキング指導(発表・やりとり)の重要性が増し、指導と評価を一体化したスピーキング活動が注目を集めている。しかしながら、教員が確保できる時間等には制約があり、日々の授業において継続的にスピーキング評価を行うには解決すべき課題がある。

本シンポジウムでは、前半に3名の教員による日頃の授業におけるスピーキング活動・評価の具体的な取り組みを紹介する。後半ではその取り組みから見えるスピーキング評価についての課題、今後の方向性等について、フロアーからの幅広いご意見もいただきながら議論を進めることにしている。これらを通して、学習者並びに授業者にとって望ましい、持続可能なスピーキング評価方法の在り方を見出していくことを目的とする。

★閉会行事★ (16:50-17:00)

*九州英語教育学会事務局 *

麻生 雄治(Yuji Aso, KASELE Office Coordinator)
 〒870-1192
 大分県大分市大字旦野原 700 番地 大分大学教育学部 麻生雄治研究室
 TEL 097-554-7949 Email: office.kasele@gmail.com